



# マダラ（本州日本海北部系群\*）①

本系群は本州日本海北部海域（青森県～石川県）に分布する。



図1 分布図

日本海では水深200～400 mの大陸斜面に多い。本系群は青森県日本海側～石川県に分布する。

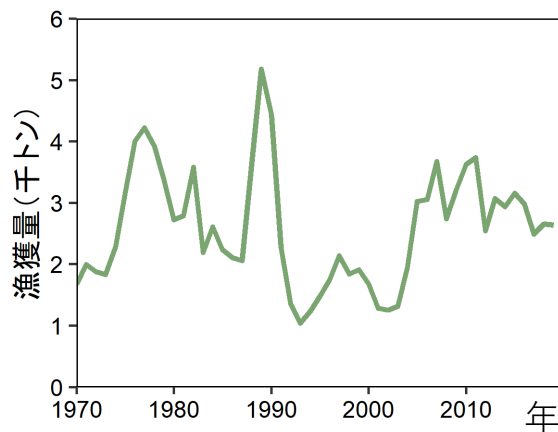


図2 漁獲量の推移

漁獲量は1990年代に低調に推移したが、2000年代初め以降増加し、2005年以降は概ね3千トン前後で推移している。2019年は2.6千トンであった。

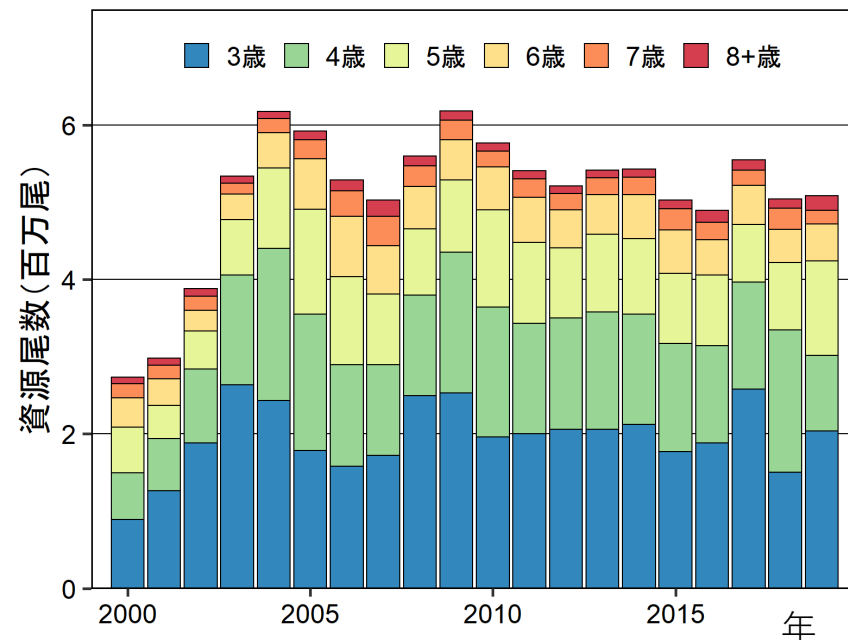


図3 年齢別資源尾数

資源量は、2000年から2004年にかけて増加し、以降増減を繰り返しながらもやや減少傾向。2020年は5.1百万尾であった。

本資料は神戸プロットまでを示した暫定版であり、管理基準値案や漁獲管理規則案などを示した完成版については、令和3年度の資源評価会議後（7月以降）に公表する見込みである。

\*本系群は令和2年度資源評価における日本海系群を指す。

# マダラ（本州日本海北部系群\*） ②

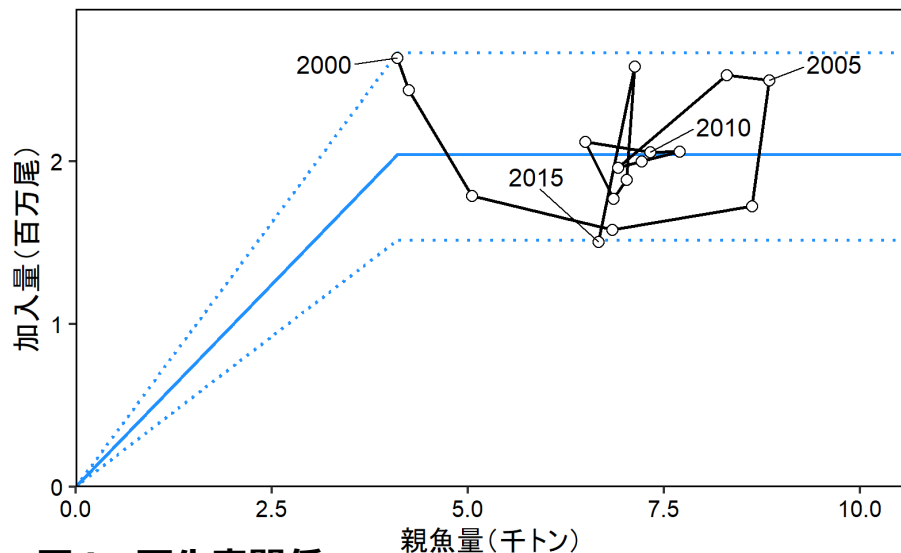


図4 再生産関係

2000～2015年の親魚量と3年後の加入量に対し、ホッケー・スティック型再生産関係（青太線：中央値、青点線：90%信頼区間）を適用した。

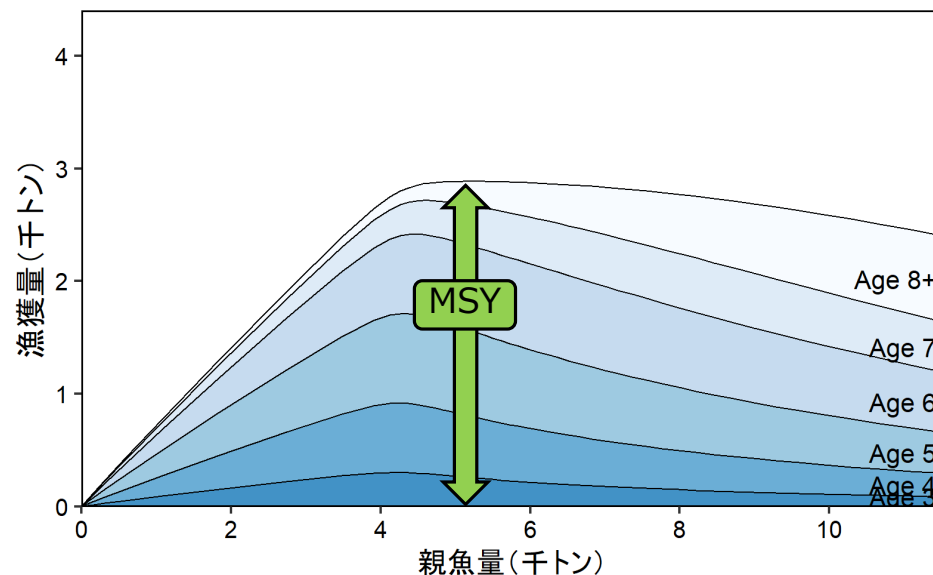


図5 年齢別漁獲量曲線

最大持続生産量（MSY）を実現する親魚量（SBmsy）は5.2千トンと算定される。

MSYを実現する親魚量	2019年の親魚量	MSY
5.2千トン	7.1千トン	2.9千トン

\* 親魚量は漁期後の値である。

本資料は神戸プロットまでを示した暫定版であり、管理基準値案や漁獲管理規則案などを示した完成版については、令和3年度の資源評価会議後（7月以降）に公表する見込みである。

\*本系群は令和2年度資源評価における日本海系群を指す。

# マダラ（本州日本海北部系群\*） ③

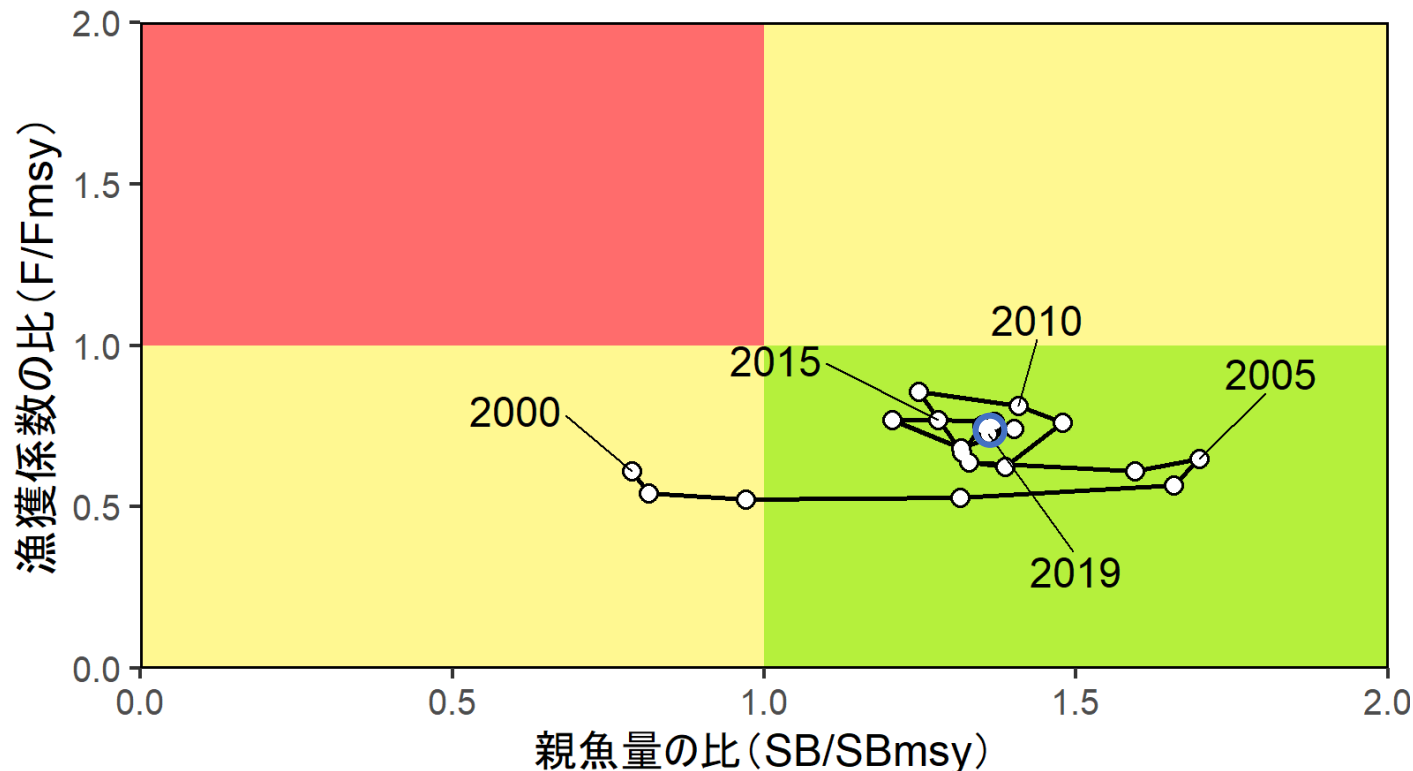


図6 神戸プロット(神戸チャート)

漁獲圧 (F) は、2000年以降、最大持続生産量 (MSY) を実現する漁獲圧 (Fmsy) を下回っていた。親魚量も2003年以降、最大持続生産量を実現する親魚量 (SBmsy) を上回っていた。2019年は、漁獲圧がFmsyを下回り、親魚量がSBmsyを上回っている。

本資料は神戸プロットまでを示した暫定版であり、管理基準値案や漁獲管理規則案などを示した完成版については、令和3年度の資源評価会議後（7月以降）に公表する見込みである。

\*本系群は令和2年度資源評価における日本海系群を指す。